

2013年度リエゾンゼミ I の教育効果に関するアンケートの結果（報告）

FD委員会

I. アンケートの概要

2014年1月から2月に1年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学士力達成度（19項目、キャリア形成への取り組みを含む）、専門性（3項目）、意欲（2項目）、諸活動に書ける時間に関する項目（8項目）より構成されている。714名の回答が得られた（回答率52.2%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性と施設・設備等の利用状況

回答者の学科構成を表1-1、属性を表1-2に、施設・設備等の利用状況を表2に示す。

表1-1 学科

学科名	度数	%
社会福祉学科	154	21.6
社会教育学科	65	9.1
福祉心理学科	118	16.5
産業福祉マネジメント学科	83	11.6
情報福祉マネジメント学科	43	6.0
子ども教育学科	127	17.8
保健看護学科	58	8.1
リハビリテーション学科	27	3.8
医療経営管理学科	38	5.3
無回答	1	0.1
総計	714	100.0

表1-2 属性

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	203	28.4
	女性	511	71.6
入試形態	AO入試	74	10.4
	推薦入試	221	31.0
	一般入試	417	58.4
	無回答	2	0.3
居住形態	自宅	354	49.6
	自宅以外	355	49.7
	無回答	5	0.7
部・サークルの所属	有	613	85.9
	無	97	13.6
	無回答	4	.6
ボランティア活動	有	473	66.2
	無	236	33.1
	無回答	5	.7
国際交流経験	有	20	2.8
	無	689	96.5
	無回答	5	.7
アルバイト経験	有	524	73.4
	無	188	26.3
	無回答	2	.3
キャリアデザイン I の履修	有	245	34.3
	無	465	65.1
	無回答	4	.6
実学臨床教育 (総合福祉学部のみ)	有	21	6.2
	無	308	91.4
	無回答	8	2.4
副専攻の履修 (総合福祉学部、総合マネジメント学部のみ)	有	41	8.9
	無	367	79.3
	無回答	55	11.9

表2 利用状況

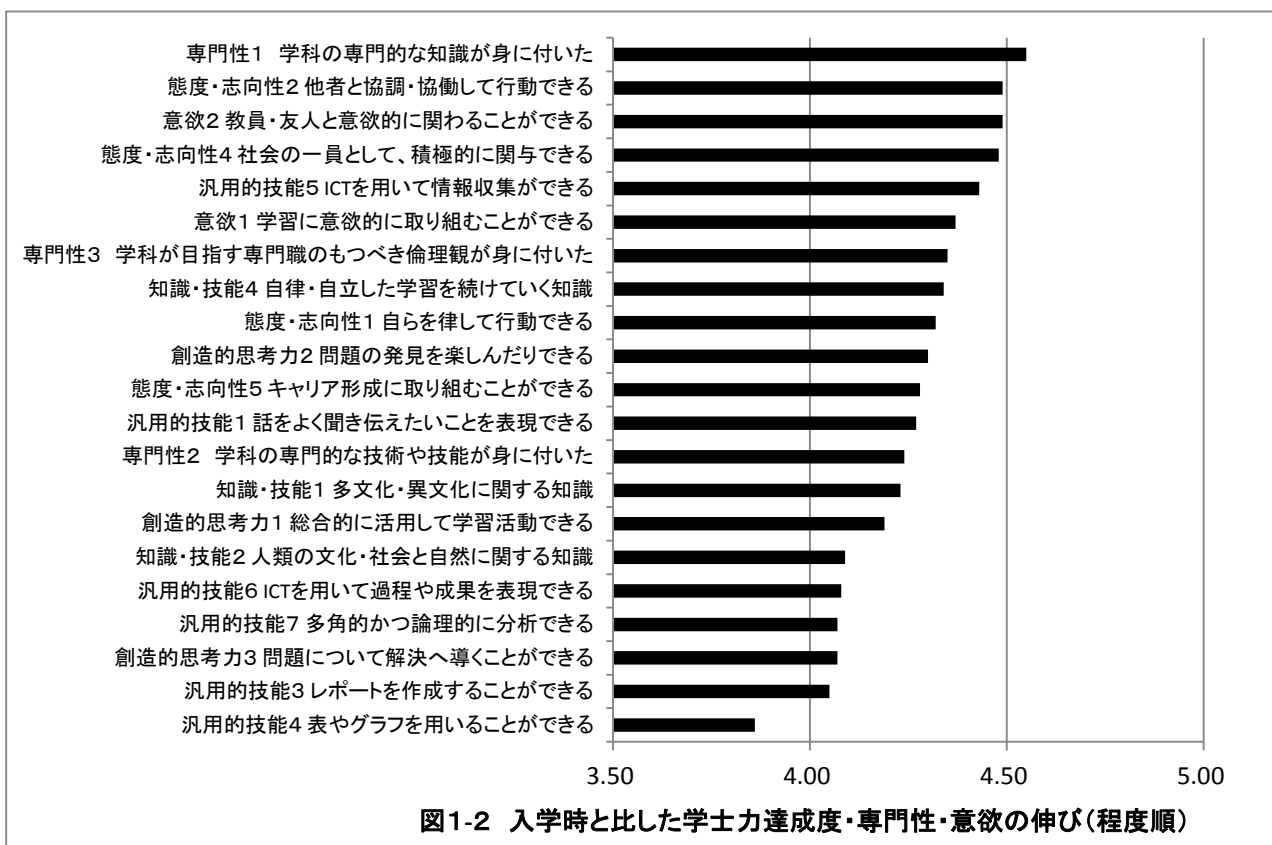
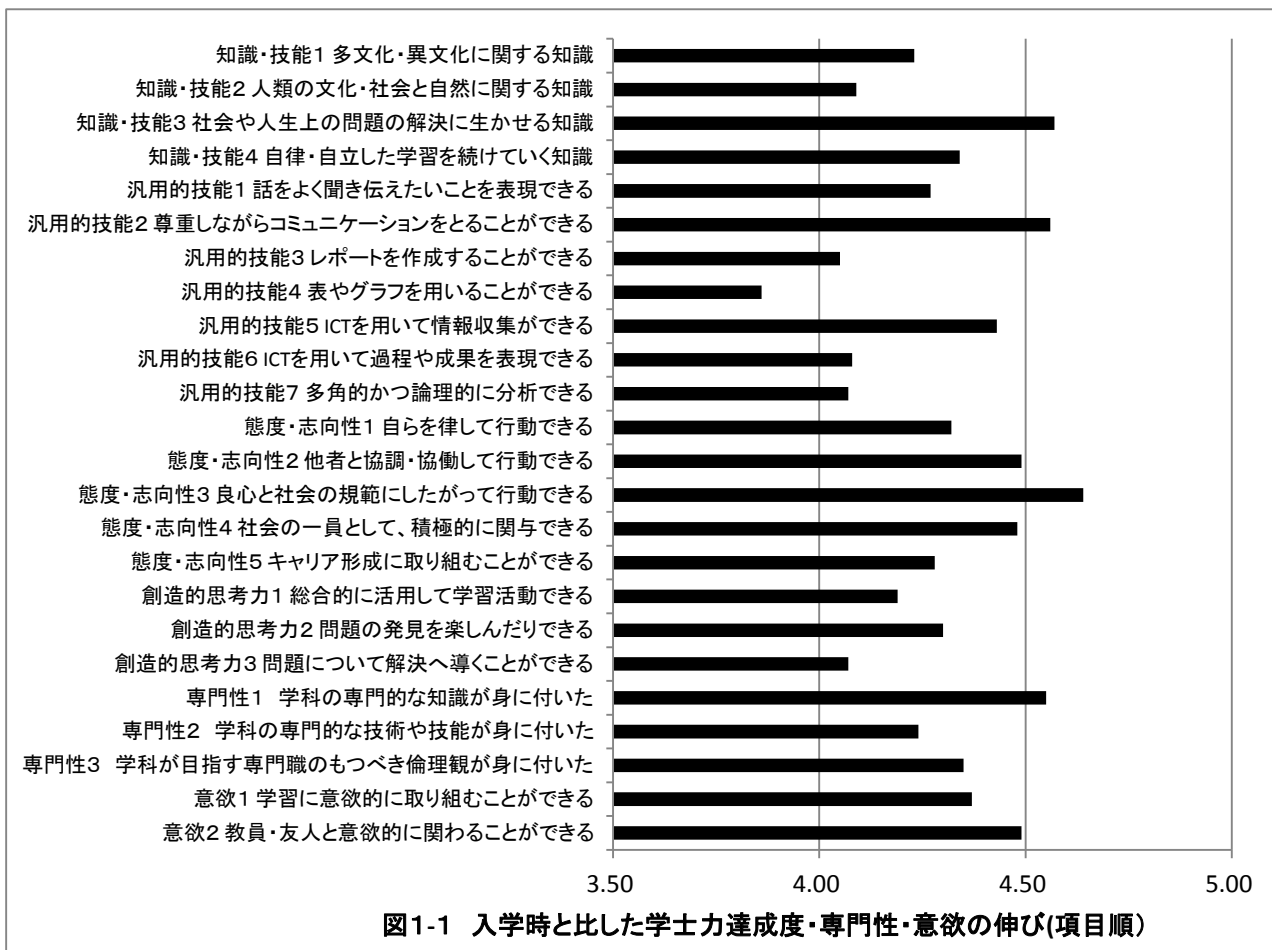
		頻繁に	ときどき	たまに	なし	無回答
図書館	度数	129	300	227	54	4
	%	18.1	42.0	31.8	7.6	0.6
美術工芸館	度数	4	19	217	470	4
	%	0.6	2.7	30.4	65.8	0.6
キャリアセンター	度数	5	54	193	458	4
	%	0.7	7.6	27.0	64.1	0.6
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	1	32	237	437	7
	%	0.1	4.5	33.2	61.2	1.0
コミュニケーションタイム	度数	9	28	53	618	6
	%	1.3	3.9	7.4	86.6	0.8
UNIPA クラスプロフィール機能	度数	82	198	299	132	3
	%	11.5	27.7	41.9	18.5	0.4
ピアメンター	度数	10	23	61	613	7
	%	1.4	3.2	8.5	85.9	1.0
Webテキスト「リエゾンゼミ・ナビ」	度数	5	58	304	343	4
	%	0.7	8.1	42.6	48.0	0.6
tfuマイカルテシシステム・tfu元気点検道場・tfu元気点検票かるた	度数	2	54	351	304	3
	%	0.3	7.6	49.2	42.6	0.4

2. 学士力達成度・意欲の伸び

入学時と比した学士力達成度、専門性、意欲の伸びについて、項目順にまとめたものを図 1-1、伸びの程度順にまとめたものを図 1-2 に示す。

これら 24 項目はいずれも平均値 3.5 以上（伸びたことを意味する）であった。特に伸びの大きい項目として示されたのは、「社会との関わり、他者とのコミュニケーション及びそれらへの配慮」に関する項目であった。また学科の専門性(専門知識)の習得が最上位の項目となっている。これについては学びの基礎の確立を目的としたリエゾンゼミ I の教育目標に含まれてはいないものの、学科（担当教員）の専門性が講義内容に反映されたことが主因ではないかと想定される。

他方、「課題の分析、レポート・資料作成による成果の表現」に関する項目は、伸びが見られるものの、その程度は小さかった。リエゾンゼミ I ではこれらが高めることを目標の 1 つに含め取り組んでいるが、その学習効果は充分であるとはいえず、改善・工夫を必要とする課題である。



3. 諸活動時間

1週間当たりの諸活動にあてる時間について表3にまとめた。各項目において10%を超える時間帯を太字と表現している。これらを見ると、授業に出席している時間が最も多いのは当然のこととしても、次いで多いのはアルバイトに充てる時間であった（なお、まったくアルバイトをしていない者も3割いることに注意したい、表1-2も参照）。次に、予復習に充てる時間はおよそ「2時間未満」とまとめられることが明らかとなった。

表3 1週間あたりの諸活動時間

		0時間	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	無回答
履修している授業の予習や復習をする	度数	72	239	225	107	43	11	4	8	5
	%	10.1	33.5	31.5	15.0	6.0	1.5	0.6	1.1	0.7
授業に出席する	度数	4	9	16	28	49	110	166	312	20
	%	0.6	1.3	2.2	3.9	6.9	15.4	23.2	43.7	2.8
オフィスパワーを利用するなどして、授業時間以外に教員と面談する	度数	478	179	28	8	1	5	4	2	9
	%	66.9	25.1	3.9	1.1	0.1	0.7	0.6	0.3	1.3
読書をする(予復習のための教科書・専門書を除く)	度数	185	239	172	62	23	9	5	13	6
	%	25.9	33.5	24.1	8.7	3.2	1.3	0.7	1.8	0.8
新聞を読む	度数	354	261	60	22	7	2	1	2	5
	%	49.6	36.6	8.4	3.1	1.0	0.3	0.1	0.3	0.7
インターネットでニュースを調べる	度数	114	316	165	69	27	9	3	8	3
	%	16.0	44.3	23.1	9.7	3.8	1.3	0.4	1.1	0.4
ボランティア活動をする	度数	267	154	100	88	41	14	2	43	5
	%	37.4	21.6	14.0	12.3	5.7	2.0	0.3	6.0	0.7
アルバイトをする	度数	215	16	27	65	97	104	77	106	7
	%	30.1	2.2	3.8	9.1	13.6	14.6	10.8	14.8	1.0

4. 属性と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は、表4の通りであった。入試形態では、推薦入試にて入学した者が一般入試で入学した者よりも学士力等の伸びを高く示すことが明らかとなった。次に、部・サークル活動は、所属している者のほうが「対人面での意欲及び他者との協調・コミュニケーションの達成度の高さを示した。アルバイトでも同様の傾向が見られ、アルバイトしている者のほうが対人面での意欲やコミュニケーションの達成度が高く、加えて社会成員の一員であることの意識の高さが示された。学生中心で組織する集団そして学外の者と形成する集団での活動が、社会性の側面での学士力の伸びには重要と思われる。キャリアデザインIに関しては、履修しなかった者のほうが履修した者よりも伸びを示すという結果となった。特に専門性についてその傾向が強くうかがわれることとなった。これはキャリアデザインIが自らの現状での問題点や不足している部分等に気づかせる契機となり、低い評価を行うように影響したことも考えられよう。

		性別	入試形態	居住形態	部活動・サークル	ボランティア活動	国際交流	アルバイト	ゼミ・キャリアアデ	育実学臨床教	副専攻
知識・技能	多文化・異文化に関する知識	女<男	一般<推薦		無<有	無<有	無<有				
	人類の文化・社会と自然に関する知識	女<男	一般<推薦	自宅<自宅以外						無<有	
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		一般<推薦		無<有	無<有			有<無		
	自律・自立した学習を続けていく知識		一般<推薦	自宅<自宅以外	無<有	無<有					
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる		一般<推薦		無<有	無<有					
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる		一般<推薦、AO		無<有	無<有		無<有			
	レポートを作成することができる										
	表やグラフを用いることができる										
	ICTを用いて情報収集ができる							無<有			
	ICTを用いて過程や成果を表現できる										
	多角的かつ論理的に分析できる										
態度・志向性	自らを律して行動できる		一般<推薦		無<有						
	他者と協調・協働して行動できる		一般<推薦、AO		無<有	無<有		無<有	有<無		
	良心と社会の規範にしたがって行動できる		一般<推薦		無<有	無<有					
	社会の一員として、積極的に関与できる		一般<推薦		無<有	無<有		無<有			
	キャリア形成に取り組むことができる				無<有						
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	女<男	一般<推薦		無<有						
	問題の発見を楽しんだりできる		一般<推薦				無<有				
	問題について解決へ導くことができる		一般<推薦								
専門性	所属する学科の専門的な知識が身に付いた	男<女							有<無		
	所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた		一般<推薦						有<無	無<有	
	所属する学科が目指す専門職のつづき倫理観が身に付いた								有<無		
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる		一般<推薦								
	教員・友人と意欲的に関わることができる		一般<推薦		無<有	無<有		無<有			

5. 施設・設備の利用と学士力達成度・専門性・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表5の通りであった(表中数値は順位相関係数)。有意な関連が示された部分では、すべて弱いながらも正の相関であり、施設・設備の利用が学士力・専門性・意欲に対して正の影響を及ぼしている(利用する者のほうが利用しない者よりも伸びを高く示す)ことが、弱い関係ながらも示されたと言えよう。特に「図書館」「教員とのコミュニケーション・タイムでの面談」「UNIPA クラスプロフィール機能の活用」はほぼすべての項目について正の関係を示していた。

表5 学士力・専門性・意欲と施設利用の関係

		図書館	美術工芸館	キャリアセンター	保健室	コミュニケーションタイム	クラスプロフィール機能	ピア・メンター	リエゾンゼミナビ	tfuマイカルテシステム
知識・技能	多文化・異文化に関する知識の理解	.19**	.13**	.12**	.09*	.21**	.20**	.10*	.12**	.11**
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解	.15**	.10*	.17**		.17**	.19**	.09*	.13**	
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.10*		.10*		.11**	.11**		.11**	.09*
	自律・自立した学習を続けていく知識	.09*		.12**		.16**	.19**	.11**	.11**	.15**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.08*		.12**		.12**	.18**	.08*		.10**
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.09*		.08*		.16**	.17**		.08*	.12**
	レポートを作成することができる	.14**	.10**	.11**		.13**	.09*	.15**	.10**	
	表やグラフを用いることができる	.14**	.10**	.106*		.11**	.13**	.16**		
	ICTを用いて情報収集ができる	.26**					.16**	.11**		.08*
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.17**	.12**			.08*	.18**	.15**	.11**	.11**
	多角的かつ論理的に分析できる	.14**	.10*	.14**		.12**	.17**	.10*	.08*	
態度・志向性	自らを律して行動できる	.11**				.10**	.18**	.08*	.10**	.10*
	他者と協調・協働して行動できる	.14**				.12**	.19**		.11**	.14**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.12**				.10**	.16**			
	社会の一員として、積極的に関与できる	.09*		.12**		.13**	.15**			
	キャリア形成に取り組むことができる			.09*		.09*	.09*			
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	.14**	.12**	.16**		.15**	.19**	.12**		.10*
	問題の発見を楽しんだりできる	.17**		.12**	.12**	.17**	.14**	0.07		
	問題について解決へ導くことができる	.16**	.13**	.10*	.08*	.16**	.14**	.12**	.12**	.10**
専門性	所属する学科の専門的な知識が身に付いた	.09*	.09*			.102*			.11**	.14**
	所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた	.09*	.09*			.13**	.12**	.14**		.11**
	所属する学科が目指す専門職のつづき倫理観が身に付いた	.08*	.09*			.10**	.09*	.10*		.12**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.10**		.08*		.15**	.18**	.13**	.09*	.13**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.15**				.16**	.13**	.09*		.08*

注1: 表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2: 有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

【資料1 学士力達成度・専門性・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 入学時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識の理解ができた
- 2) 入学時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 入学時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を学んだ
- 4) 入学時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 入学時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 入学時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 入学時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 入学時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 入学時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 入学時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 入学時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 入学時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 入学時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 入学時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 入学時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 入学時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 入学時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざま知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 入学時に比べ、社会を広く見わたし疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 入学時に比べ、発見した問題について情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 専門性

- 20) 入学時に比べ、所属する学科の専門的な知識が身に付いた
非常にそう思う そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない まったくそう思わない
- 21) 入学時に比べ、所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた
非常にそう思う そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない まったくそう思わない
- 22) 入学時に比べ、所属する学科が目指す専門職のもつべき倫理観が身に付いた

非常にそう思う そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない まったくそう思わない

(6) 意欲

23) 入学時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった

非常にそう思う そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない まったくそう思わない

24) 入学時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるようになるようになった

非常にそう思う そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない まったくそう思わない